

横浜市立南戸塚中学校 令和元年度版 中期学校経営方針（令和0～3年度）

学校 教育 目 標	★①自ら学習力の向上に努め、自立的に学び続けていく力を伸ばします【知】 ②自他の生命を尊重し、心身の健康を維持・向上していく力を伸ばします【徳・体】 ③共に認め合い、参画し、自他および社会を高めていく力を伸ばします【公・開】 [具体的な取組目標] ①学習の基礎・基本を身に付け、それらを基に活用・探究していく学習力を養うと共に、自立的に学び続ける意思を育みます。 ②生徒自らが心身の健康や体力の維持・増進を心がけ、それに向けての実践意欲や振り返る姿勢を育みます。 ③仲間や地域の人たちと協働して取り組む活動を通して、人とともに生きる大切さを理解し、その実践力を育みます。					
	学校 概 要	創立 35 周年	学校長 赤堀 貴	副校長 飯田 太	2 学期制	一般学級: 15 個別支援学級: 3
児童生徒数: 554 人		主な関係校: 南戸塚小学校 下郷小学校 (小雀小学校) (千秀小学校)				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
★〈言語能力〉〈情報活用能力〉 〈問題発見・解決能力〉 〈自分づくりに関する力〉 〈健康・安全・食に関する力〉	南戸塚中 南戸塚小 下郷小	他の人や社会に役立つ人を目指して、主体的に行動し、 たくましく生きる子ども ・合同研修会を活用し、9年間で育てる子ども像の実現のための資質と能力についての共通理解を図る。 ・公開授業を通じて、保護者や地域の方々の意見を交えながら、資質・能力の育成を図る。 ・合同授業研究会を通じて、育成の方策が効果的となっているかを検証する。

中期 取 組 目 標	○「チーム南戸塚」として組織的な学校運営を行い、「誰もが・安心して・豊かに」生活できる学校づくりを目指します。 ・生徒、保護者、地域が参画する学校評価を実施し、根拠に基づいた改善を重ねます。 ・生命を大切にすることを第一に考えた、安心、安全な学校づくりを目指します。(体) ・いま求められる力を理解し、参加型の授業を実践しつつ学力向上に努めます。(知) ・主体的な活動を支援し、自尊感情を高めます。(徳)
------------------------	--

重点取組分野	具体的取組
安全管理の徹底 担当 保健指導部	・生徒による安全点検を定期的に行って結果を公表して危険箇所を把握し、職員とともに安全に対する意識を高める。 ・災害時や事故発生時にすべての職員が自主的に動き対処できるよう研修をすすめる。 ・学習環境を整備し、安全で快適な学校生活を送れるようにする。
授業改善 担当 研究部・教科会	・学習指導要領の趣旨に基づく実践方法や、効果のあった学習形態などについてのまとめを教科ごとに作成し、研修会で発表し、相互に研究を深める。 ・教科横断的に取り組む内容を再構成し、「総合的な学習の時間」の充実を図る。従来のキャリア教育のほかに、柱となる取り組みをつくる。
主体的な 生徒活動 担当 特活指導部	・話し合い活動を充実させるために、各委員会の活動や行事などの取組を全校に伝えるとともに、課題を解決する話し合いの場を設定します。 ・地域の行事やボランティア活動の情報提供を活発にし、参加を促し地域の方々と協働し、社会に貢献しようとする態度を育てます。
受容型生徒指導 担当 生徒指導部	・定期的な生活アンケートの実施や教育相談の充実で生徒理解を深め、家庭との連携を密にする。アンケートの集約・事後指導の徹底。 ・授業、休み時間、昼食時、廊下、保健室等で積極的に生徒たちの輪、会話に入っていく。 ・不登校生徒・保護者との相談活動を充実させ、必要に応じて他機関と連携する。 ・特別支援を要する生徒を把握し、特別支援教育校内委員会(企画会)と連携をしていく。
教育課程の編成 担当 OJTチーム・全職員	2019前:学校教育目標(案)の作成 → 2019後:学校教育目標の確定 → 2020:各教科のカリ編成の完了 2020:各教科の評価の研究と理解 計画通り教育課程の編成を行うことと、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程となるよう、研修会を開催する。
いじめへの対応 担当 専任・生徒指導部	①生徒アンケートを定期的の実施し(年4回)、教育相談の場において、傾聴・受容的姿勢で臨む。 ②生徒指導と事案対応の区別を明確にし、基本的な生徒とのかかわり方を見直す。 ③家庭訪問、懇談会での保護者への対応を重視し、保護者の考えや意見等の発信を丁寧に聞き取り、全職員で共有する。
人材育成・ 組織運営 (働き方改革) 担当 企画運営会	①部門の目標を明確にし、年2回の振り返りを組織の修正に活かす。 ②部門会議開催前に議題を明確にし会議に臨む。 ③スタンドミーティング等を活用し、会議時間を短縮し、生徒と向き合う時間を多くする。 ④研究授業、校内研修、メンター研修等を意図的につなげ教師力の向上を目指す。 ⑤閉庁日、留守番電話の設定を進め、年休取得の日数を昨年を上回る日数とする。